

インカレロング意見書

開かれるとしたらあくまでインカレそのもの、やるかやらないかのアンケートを取る、という方法がアンフェアだと主張します。というのも、なにかしらの代替大会として大会を開く、あるいはクラスを設けてもらうという案が却下された議論の経緯に疑問を覚えるためです。

議事録を読む限りでは、「運営者側をなめている」「エリートは権利でなく義務でもある」という柴本氏の主張により議論の方向が転換したように読み取れますが、今回の臨時総会は、あくまで“学生の意見”をまとめるためのものではなかったのでしょうか？その点で、学生の意見をまとめるためという目的で開催された議論に、関東の一大学のオフィシャルでしかない柴本氏が意見を述べ、それによりそれ以降の議論の論点が彼の主張にもとづいていることへの異議を申し立てたいと考えます。学連の理事であり数多くの大会運営にも携わっている山川、木村両氏が不参加を表明している時点で、この会議が運営者側の考えと学生の考えをすり合わせるためのものでないはずですが。

“お遊び”という表現によりその性格がゆがめられてしまっているように思われますが、本来、インカレロングの冠をつけずに、その代替としての大会を開く、あるいはクラスを設けてくれたら…ともちかけることが、運営者を舐めることに値するような行為であるとは思えません。そして、そもそもそれを外部に持ちかけることが失礼であるかもしれない、と考えられるならば、まず学連内部の人間である山川氏や木村氏と議論を重ねればよいことです。関東の学生からすれば反直感的なことかもしれませんが、日本学連としての方向を打ち出すために議論をしている以上、加盟員（学生）と理事（山川氏や木村氏）が内部の人間であり、柴本氏のようなOBはあくまで外部の人間です。たとえ関東の学生にとって良く知る人物であれ、今回の議論に加わっていること自体がおかしいと言わざるを得ませんし、後半以降の“やる気を出させるための強制力”や“エリートの義務”といった本来の目的とはズレた議論にも納得しがたいものを感じます。これは個人的な思いですが、本当に“エリートの義務”なんてものを考える必要があるんですか？そういった点に関しても、重要な論点だと考えるならば上から目線のOBの意見にただ従うのではなく、否定的な意見も含めて学生内で議論すべきだったと考えます。

以上の主張から、すくなくとも外部の人間の主張すべき論で固めてからクローズドなアンケートを取るのではなく、まず学生のみながある程度納得できる方法を模索し、理事と相談、外部団体と交渉、その結果もし外部団体が条件を飲んでくれれば開催、飲んでもくれなければ開催はなし、というプロセスを取るべきだと主張します。時間は少ないので、やれることは限られているかとは思いますが、みんなが完全に納得する問題ではないだけに、少なくとも手続き上、納得できるプロセスで議論をしなければと考えから意見書を提出しました。

#####以下日本学連幹事会からの返答#####

日本学連幹事長の齋藤です。
意見書に対する返答をいたします。

まず、お遊びという議事録上の表現が悪かったことに関してはお詫びしたいと思います。
現場にいた人は全員、「お遊び」というと語弊がある、いわゆる交流大会程度のもの、と捉えていましたと認識していますので、そのような理解をしてくださると幸いです。

また、最初の発話者の「表現は悪いが…」という発言が議事録には反映されていなかったようです。

さて本件、幹事会としては、大きな問題があるとは考えておりません。

理由は、現場にいた学生のほとんどから反対意見が出ていないことや、もうひとつの証拠として、学生主体というスタンスを分かっているオブザーバーの西脇さんが、反論しなかったことなどもあります。それ以上に議論の内容に依拠しています。

議論の流れの中ではもともと、併設の人で「エリートの人が出る気を出して走らないなら運営はしたくない」という意見があり、それを考慮すると、大会を開くとした場合のエリートとしての義務や、運営者に対する礼儀、という考えが自然発生していたと考えています。

これを含めて考慮した結果、大会を開くとしたら極力選手全員が「やる気を出して」全力で臨むのが望ましい。

一方でエリートとしての現在の心境では、少なくともインカレの名を冠していない場合は多くの人が全力で臨めなさそうな展望である。

ならば、「やるとしたら」インカレの名を冠して、カップ授与・表彰・入賞者のプログラムへの記録・学連枠と言ったものを生じさせることで、ある程度の強制力を持たせるべきである。（相手うんぬんの話ではなく）

このような、学生主体での理論が成り立っているため、結論としては、柴本さんの意見でその方向に後押しが入ったものの、あまり関係なかったかもしくは多少はきっかけになったかも程度のものであり、大きな変化はなかったと認識しています。

また多少厳しいことを言えば、「学生のみんなが納得できる」というものを目指すのであれば、エリート以外の意見が少なすぎるという、目を背けることができない現状があります。

これでは、幹事会の時点での意見を併設の人々の意見と判断せざるを得ません。

ただ少なくとも、エリートが望むなら、運営に出来る限り協力したいという人が多いと言う事実は存在しました。

そこで我々は最終的にはエリートの心の問題であると判断した、ということになります。

やるかやらないかのアンケートをとりましたが、

これに関してはやる場合どれだけの人数が集まるかの数を知りたかったためのものです。

その後のスタンスは、それぞれの問題であると考えています。

それ以外の要素に関しては公開されたアンケート結果を見てもわかる通り、自由記述欄に多くの意見をいただいております、

もちろんこれに関しても考慮に入れて、次回幹事会で議論を行う予定です。

このような、全加盟員に対してという観点では多少不公平が生じてしまう形式になってしまうのはこちらとしても心苦しい限りですが、

現状の意見の集まり方では理想論と言わざるを得ないため、

この火急の事態を收拾させるためにやむを得ずこのような方法になってしまった次第です。

事実、幹事会にいた人の中では多勢で同意がとれていました。

どうか、ご了承くださいねと思います。

ただ、学連に関係のないOBの方が幹事会に参加していたことに関しては、完全にこちらの落ち度であり、それに対してその場で指摘できなかったことに関しては、お詫び申し上げます。

また、以上のようなことが読み取れない議事録となってしまうことに関しても、お詫びいたします。

今後はこのようなことがないように、幹事会一同精進する所存ですので、どうかよろしくお願いします。

次回幹事会も本議題に関しては外部に開放するつもりでございますので、よろしければお越しください。

以上。

日本学連幹事会一同